

2025 年度

国語

最初に、以下の^{ちゅういじこう}注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は^{かんとくしや}監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受験 番号	
----------	--

* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一

①～⑥の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------|----------------------------|
| ① 親コウコウをする。 | ② 自分の名前のユライを聞く。 |
| ④ 船がコウカイに出る。 | ⑤ ボウエンレンズをのぞく。 |
| | ⑥ 時間の無駄をハブク。
ソウコの中に入れる。 |

問二

次の中から意味が似ている言葉を二つ選び、記号で答えなさい。

ア、応答 イ、反応 ウ、応用 エ、応急 オ、適応

問三

次の□の中のひらがなを漢字にしたときの部首名をひらがなで答えなさい。

書類に□いんを押す

問四

次の□に対になる漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

□□無じん尽

問五

次の文はことわざである。()に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

() から出たさび

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いつもどおりの【夏】

ピンポン

玄関のチャイムが鳴った。音々^{ねね}はなんだか嫌な予感がした。

「はい？」

おかあさんが「何か届く予定、あったかしら」と首をかしげながら玄関に向かった。

「はじめまして。俳句部の天神^{てんじん}と申します」

玄関のドアが開き、エアコンで冷えた空気が外に吐き出されるのと入れ違いに、爽やかな自己紹介の声が音々の家の中に吹き込んだ。

天神くんの声だ。

どうして。今日が夏^注吟行の日というのは知っている。準備もできている。でも、学校で待ち合わせの予定だったはず。

「待ちきれなくて迎えにきちゃいました！」

おかあさんの背中に隠れて天神くんの顔は見えないが、絶対満面の笑みであることが、声だけでわかる。

「音々ちゃん、お友だち？」

音々を振り返るおかあさんの目がウルウルしている。^②いまにも泣きだしそうだ。

「お友だち？ うん、お友だち、お友だち」

もうそれでいいから、と音々はそれ以上の説明責任から逃れるように、おかあさんを引っ張ってリビングに連れていった。

「もう、音々ったら。言っといってくればケーキでも買っというのに」

なんの記念日だ。おかあさんは昔から、ちょっと大袈裟^{おおげさ}なところがある。「友だちがおうちに来た記念パーティー」とか恥^はずか

しいから絶対やめてほしい。

奥^{おく}のキッチンで冷蔵庫を開けたり閉めたりしてソワソワしているおかあさんを置いて、音々は玄関に向かった。天神くんの突然^{ぜんぜん}の来訪を喜ぶよりも、戸惑^{とまど}いのほうが勝っていて、音々はつい責めるような言い方になってしまう。

「待ち合わせ、学校だよね。なぜうちに？」

「ん？ 学校に行くまでの道でも、いろいろ見つけられるかな、と思って」

まったく悪びれる様子のない天神くんのマイペースさが、逆に音々にもいつものペースを思い出させてくれる。そうだ、天神くんはこういうひとだった。

「昨日は興奮して眠^むれなかったんだ」

少し充血^{じゅうけつ}気味の目を見開いて、天神くんは嬉^{うれ}しそうに教えてくれた。まるで遠足前日の子どものようなようだ。

「もしかして、てるてる坊主^{ぼうず}つくったり？」

音々もすっかり落ち着いて、冗談^{じやうだん}を言う余裕^{よゆう}が戻^{もど}ってきた。

「え？ なんてわかったの？」

冗談のつもりだったのに。天神くんというひとは、クールなのか無邪^{むじゃ}気なのか、ときどき本当にわからなくなる。

「ねえ、音々ちゃん？ あがってもらいなさいよ。いま冷たい麦茶、入れるから」

奥からおかあさんの声がして、慌^{あわ}てて音々は靴^{くつ}を履^はく。

「いってくる！ 帰ってくるの、夕方ね」

「おかあさん、帰りも責任もって僕^{ぼく}が送^{おく}ってきますので！」

天神くんが余計^{よけい}な一言を付け足した。いまは訂正^{ていせい}しているひまはない。

1

 家を出ないと、天神くんもおかあさんもさらに余計なことを言いだしかねない。

玄関のドアを少し乱暴に閉めると、さつきまで身を守ってくれていたエアコンの冷気がなくなり、一気に暴力的な暑さに包まれる。

「あつついね。あれ、でも汗^{あせ}かいてない？」

天神くんは涼^{すず}しそうな顔をしている。音々は背負^{さづ}ったりリュックから早速^{さつそく}タオル地のハンカチを取り出そうとしているのに。

「暑いのは平気なんだ」

自慢^{じまん}するでもなく、
2 そう言う^うと、天神くんは「行こう」と先を歩いた。

学校に着くと小林先生が校門前で待っていた。今日は、サイドの髪の毛が白いままだ。

「あら、ふたりいっしょに来たの？」

ニヤニヤしながらそうたずねてくる小林先生を見て、音々はすぐに察^{さつ}した。家の住所を天神くんに教えたのはこのひとに違いない。教師が生徒の個人情報を守れないのはいかがなものか。それでも、どこか憎^{にく}めないのは先生のキャラのせいもあるだろう。キャラ勝ちはずるい^いとつねづね音々は思っていたが、実際憎^{にく}めないのだから仕方ない。

「今日も暑いわね」

個人情報漏洩^{ろうえい}もど^Aこ吹^ふく風。小林先生はそう言^いって、手で「うちわ」をつくって顔を扇^{あお}いでいる。

「熱中^{ねつちゅう}症にならないように水分補給はこまめにね」

「こまめな水分補給」の指導が音々には新鮮だった。音々の家では「喉^{のど}が渴^{かわ}いた」と思う前に飲み物が出てくるから。おかさんが冷蔵庫に常備している「デトックスウォーター」。季節の果物やハーブなんかが入っていて、とてもいい香りがする。

——いつもの、水筒^{すいとう}に入れ^いれたから。

おかあさんが持たせてくれたのは、ブルーベリーやラズベリーが入ったやつ。ベリーは予め凍^{あらかじ}らせてあるので保冷効果もあるらしい。

——音々ちゃんがまた部活に入るって聞いたときはびっくりしたけど、今度は楽しめてるみたいで、おかあさん、安心した。音々が俳句部へ入部したことをおかあさんに報告したのは、体験入部期間が終わってからだった。それまでは、帰宅が遅くなったときは「図書館で宿題してた、数学の」とこまかしていた。

一年生のバドミントン部のときみたいに、すぐやめてしまって心配をかけるのが嫌だったのだ。あのときのおかあさんの残念そうな顔。いまいち出しても、音々の胸はぎゅつとなる。

——俳句部に入部すること、決めたんだ。

晩ごはんを食べながらそう告げたときの、おかあさんとおとうさんの目。あまりにまんまるで、音々のほうがびくりして目を丸くしてしまったのを覚えている。

——音々ちゃん、その話し方は……。

そうおかあさんが言いかけたのを、おとうさんが遮った。^⑤音々は「大丈夫」の意味でふたりに笑顔を見せた。天神くんも小林先生も、音々の「五・七・五」の喋り方に対しても何も言わなかった。

——行間を読むのも得意なのよ。一応、国語教師なんで。

小林先生はドヤ顔で言った。

——僕もそれ真似したら、もっと俳句うまくなるかな。

天神くんは冗談ではなく真面目に音々の真似を検討していた。

ふたりとも、音々の話し方を否定するでも、意図的にスルーするでもなく、それを「個性」として認めてくれていた。少なくとも音々はふたりから嫌な感じを受けたことはなかった。

だからこのままでいい、とは音々も思っていないが、自分の居場所ができたように感じたのは確かだった。

教室では、相変わらず「無口な松尾さん」のままだったけれど。

「松尾さん？ 暑い？ 大丈夫？」

音々がぼうつとしていたのを心配して天神くんが声をかけてくれた。熱中症になったわけではないけれど、気持ちを切り替えるためにも冷たい水を飲んでおこうと、リュックからおかあさん特製デトックスウォーターの入った透明な水筒を取り出す。

「うわっ！ 何それ？ 果物入ってる！ おいしそう！」

ただでさえ高かった天神くんのテンションがさらにあがる。そんなに珍しいものだろうか。家にこれがあるのが当たり前

音々にとっては、天神くんのリアクションのほうが珍しくてびっくりしてしまふ。

「ちよつと飲ませてくれない？」

天神くんが「お願い」と両手を顔の前で合わせる。「いいよ」と水筒を差し出しかけて、慌てて音々は「ごめん」の意味で手を切った。

音々の水筒は、蓋がコップになるタイプではなく、直接口をつけて飲むタイプ。これをひとに、天神くんに貸すということは、つまりそういうことだ。

それを口に出して説明することもできず、3 水筒をリュックにしまふ。

「え？ あ、そうだよ。ごめん」

天神くんは音々の態度に、《6》と思ったのか、しゅんとなつてしまった。

「違うのよ。あげたいけれど、あのね、その……」

ふたりの間にちよつとだけ気まずい空気が流れる。

「甘酸っぱいわね、もう。いいから行くわよ！」

ふたりのやりとりを見ていた小林先生が音々と天神くんの背中を4叩いて、出発を促した。

小林先生のこういうところにちよいちよい救われているから、たまに「ん？」と思うことがあつても許せてしまふのかもしれないと音々は思った。

——先生だって、人間だもの。

入部届の件で小林先生を追及したときに返ってきたセリフだ。それはそうかも、と変に納得したのを覚えている。開き直られても困るのだけれど。

三人は校舎に見送られるように、学校を背に歩きだした。

注・夏吟行…夏に、俳句をつくるために景色の良い所や名所に出かけていくこと。

問一

1 4 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、そつと イ、どつと ウ、ボンと エ、さつさと オ、さらりと

問二

線部A「どこ吹く風」の本文における意味として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、実力がなく虚勢をはるようす。

イ、ふだんよりおとなしく、小さくなっているようす。

ウ、自分にはまったく関係がないと、知らん顔をするようす。

エ、たえず移り変わるようす。

問三

線部B「おかあさんとおとうさんの目」C「校舎に見送られるように」とあるが、用いられている表現技法をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、擬人法 イ、体言止め ウ、倒置法 エ、擬態語 オ、直喩 カ、隱喩

問四

——線部①「なんだか嫌な予感がした」とあるが、これはどのようなことか。適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、天神くんにはこっそりと迎えに来るように伝えていたが、堂々とやってきて、お母さんにその存在が知れてしまいそうなこと。

2、お母さんが音々のことを心配するあまり、友だちが迎えに来るように仕向けたのではないかということ。

3、「夏吟行」に行くことが、誰かの来訪によってお母さんにバレてしまうのではないかと心配していたこと。

4、天神くんが思いがけない行動を取って、音々の家まで迎えに来てお母さんと対面するかもしれないこと。

問五

——線部②「いまにも泣きだしそうだ」とあるが、なぜおかあさんは「泣きだしそう」なのか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、話に聞いていた天神くんをやっと会うことができ、とても感動しているから。

2、連絡もなしに訪問してくるような非常識な友だちがいることに、不安を覚えたから。

3、訪ねてきてくれるような友だちが音々にいたということが、うれしかったから。

4、大事に育ててきた音々が、自分から離れて行ってしまうのが心配だったから。

問六 — 線部③「つい責めるような言い方になってしまふ」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から

一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、天神くんがいきなり家までやってきたことが腹立たしく、許せないと思ったから。
- 2、天神くんが急に家へ訪れたことが心外で、きちんと事情を説明してほしかったから。
- 3、天神くんが家まで迎えに来てくれたのはうれしいが、突然の訪問に驚いてしまったから。おどろ
- 4、天神くんの来訪を喜んでいるのに、それに気付いていないのがもどかしかったから。

問七 — 線部④「慌てて音々は靴を履く」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号

で答えなさい。

- 1、天神くん本人がいる前で、おかあさんに友だちができたことを大袈裟に喜ばれるのが恥ずかしかったから。
- 2、天神くんと二人で話したいことがあるのに、おかあさんにしつこく邪魔されるのが面倒になってきたから。
- 3、天神くんとおかあさんが仲良くなつて、これから先自分の行動が筒抜けつつぬになることを恐れたから。
- 4、天神くんに対しておかあさんの愛想が良すぎるので、何か裏があるのではないかと疑いはじめたから。

問八 — 線部⑤「音々は『大丈夫』の意味でふたりに笑顔を見せた」とあるが、その理由を文中のことばを用いて「」から

に続くように三十字以内で答えなさい。

問九 《 》に入ることばとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

⑥

- 1、自分の遠慮^{えんりょ}がなさすぎた
- 2、自分の想いが伝わってしまった
- 3、言っではいけないことを言った
- 4、思ったことが伝わらなかった

問十 — 線部⑦「小林先生のこういうところ」とあるが、それはどのようなところか。その説明として適切なものを次の中か

ら一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、子どもたちのやりとりを優しく見守りながらも、相手を傷つけるような言動をした時には、先生としての立場からきちんと注意してくれるところ。
- 2、音々は仲良くなりたいのだが、天神くんがそれに気付かずに無神経なことを言ってしまうので、それとなく音々の気持ちを伝えてくれるところ。
- 3、天神くんが音々と親密になりたいばかりに、強引に二人の距離^{きょり}を縮めようとするのを、相手の気持ちも考えるようにと遠回しに教えてくれるところ。
- 4、お互いに親しくしたいと思いつながら、異性として意識することで生まれるぎこちない雰囲気^{ふんいき}を、冷やかすような軽い言い方で吹き飛ばしてくれるところ。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「 I 」

現在日本では、探究の時間への変更も含めて、大きな教育改革が行われようとしています。その原因は、世界が、これまでの数百年続いていた文明の流れが転換するような、とても大きな変化の節目にあるからです。日本もその影響を被らずにはいられません。世界はどのような点で変わろうとしているのでしょうか。

まず、世界がひとつになろうとしている点です。こう言うと、「いや、今各国は緊張関係にあつて、それぞれの国が自分の狭い人間関係に閉じこもろうとしている。」

1

、外国人差別とか、移民排除とか、マイノリティの人を鬱陶しがったりする注1

動きが起きているのではないか」といった反論がすぐに出てくるでしょう。確かに、イギリスはヨーロッパ連合を脱退しましたし、国境の壁を高くして移民を入れさせない法律を強めている国もあります。

それはその通りですが、そうした動きは「反動」①なのです。反動とは、全体的な大きな流れに対する抵抗です。大きな流れそのものは変わりません。今回の新型コロナウイルスの世界的な流行で、国境の移動に制限が出たりしましたが、逆に見れば、世界がそれだけつながっていることの証です。

世界の各地は、さまざまな仕方、さまざまな面でつながっています。世界中からたくさんの商品がやってきます。いろいろな国から仕事をしに来ます。世界中から観光客が遊びに来ます。コロナ禍と環境への配慮から、こうした動きがそのまま続くかわかりませんが、情報や知識が国境を越えていくのは間違いない動きです。インターネットでどの国の人ともつながることができます。情報を遮断しようとしている独裁的な政治家もありますが、それも【A】の灯火です。世界を二つに分けるような戦争はなくなりました。小さな紛争もすぐに世界中で問題として取り上げられ、解決に向けた努力がなされます。

世界はひとつにつながっています。国内で貧富の格差がつくのは、この流れの負の側面です。同じ労働なら安い賃金の国や地域に仕事が行ってしまうからです。国境がすぐなくなるとは思いませんが、今よりもその意味と力は相対化されて、世界がひと

つになる流れは止まりません。私たちは、この流れの中で生じているよい側面を推進し、悪い側面を正していかなくはなりません。^②

「 II 」

二つ目は、今触れた環境問題です。地球は、人間とあらゆる生き物が共有している唯一のかけがえない環境です。地球温暖化、大気・土壌・海洋の汚染、廃棄物の《X》、資源乱用、過剰な土地開発と森林伐採。これらの人間の活動によって、生態系は汚染され、生物種は減少しています。自然災害や自然の枯渇、環境汚染という形をとって人間にも跳ね返ってきています。自然には回復力や自己維持力がありますが、そのキャパシティを超えた人間による自然の乱用と搾取が、現代社会の最大の問題です。

とりわけ地球温暖化は、きわめて深刻な喫緊の課題でしょう。^{注2} 環境保護は、地球規模で、世界的に、全人類が取り組まなければならない、待ったなしの問題です。この二〇年ほどが、環境破壊を留めるギリギリの限界線のように思われます。

環境や自然が人類にとって最もケアしなければならないものとなりました。これからは、人間は自分たちを地球環境の一員として捉える「緑の思想」を「緑の政治」によって実現しなくてはなりません。自然を人間がどのように利用しても構わないと考えていた時代からは、これは大きな変化です。

「 III 」

三番目は、情報テクノロジーと人工知能（AI）の進歩です。インターネットの普及により、私たちの周りには大量の情報が溢れ、だれもがそれらに簡単にアクセスできます。専門家と一般人の情報格差は縮んでいますが、他方、その情報をどれだけの確に使えるかで、個々人の情報力に大きな差が生じています。

コロナ禍によって、ネットでのコミュニケーションや情報収集をうまくできるかどうかで、人と人との間にますます大きな格差ができてしまいました。ネット会議をうまく使いこなせる会社は、これまでよりもコストをかけずに業務ができるようになる

でしようし、自宅で仕事をしたい優秀な人たちにとっては魅力的な職場となるでしょう。ネットをうまく利用できる学校や大学は、教育の手段が豊富になる一方で、そうではない大学や学校は取り残されてしまうかもしれません。

2、近年、AIやロボットの発展が目覚ましく、それによって社会のあり方が変わってくると言われています。AIはあまりに賢くて人間を不要にしてしまうと危惧する学者もいますが、コンピュータは生物ではないですから、生き物である人間の心と同じことができるとは思えません。

3 道具としてのAIやロボットは、私たちの仕事のあり方を大きく変えるでしょう。作業ロボットの登場によって、工場での労働はずいぶん変わりました。同じように、形式的・機械的に処理できる事務仕事は、今後AIにとって代わられていくでしょうし、接客業も単純なものはコンピュータが行うようになります。もうその傾向は現れています。コンビニのATMが銀行や役所の窓口の代わりになり、回転寿司の注文はタブレットでするようになりました。

しかしAIやロボットでは到底できそうにない仕事もあります。創造的な仕事、感性や個性が求められる仕事、複雑なコミュニケーション、そして人間の身体が必要な仕事がそうです。AI社会とは人工知能ではできないことが重視される社会のことです。ある意味で、人間が人間らしくすることが求められる社会だと言えるでしょう。でも、それは結構、【B】の折れることかもしれません。

「 IV 」

四つ目とは、個々人の生き方です。これまでの日本では優れた組織や集団に帰属することが、よい人生だと思われてきました。よい学校を出て、よい大企業に就職するという生き方です。こうした人生は、世間からも評価され、羨ましがられてきました。

どこの組織に帰属しているかではなく、自分にとってやりがいのある仕事や活動ができているのか、仕事だけではなく、個人としての生活が充実して幸せであるか、家族や友人との間でよい関係が築けているか。見知らぬ人々にどれくらい貢献できているか、自分自身が、⑤を作っていかなければならないでしょう。一般的で単純な物差しでその人物の優劣が評価される時代は終わりました。収入や社会的地位だけに価値を求める人はどんどん減っていき、心が充実する活動に価値が求められていくで

しよう。

勉強も同様です。人気のある大学の人気のある学部に入學しただけではもはや評価されなくなるでしょう。それ以前に、自分が満足できないでしょう。せっかく医学部に入っても、医師という職業に興味を見いだせない人がよい医師になれるでしょうか。どの大学に入ったかではなく、そこで何を学ぶのか、学んだのか、が問われるようになります。

大学で教壇に立つ者としては、せっかく難関大学に入っても何をしたらよいかわからないで、大学での学びの方向性がなく、その後はあまり伸びないという人をたくさん見てきました。今後の日本は、^⑥これまでは別の意味での学歴が問われるようになります。それは、何をどのような価値や方向性に基^{もと}づいて学び、それを何に活かそうとしているかという意味での「学びの履^り歴」としての学歴です。

4、これまでとは異なつた知識と知的能力がさらに重視される社会になります。これから重視される学歴とは、この有名大学を出たかではありません。あなたが何の勉強をしたか、どんな知識や能力を身につけて、それがどのように社会に結びついているのか、本当の意味での「学」びの履「歴」が問われるのです。その学んだことによって、どのような新しい知的貢献ができるのか、社会に対してどのようなよい影響^{えいぎょう}が与^{あた}えられるのか、こうしたことが評価されるようになるのです。

これからの社会では、産業社会の実利から一定の距離^{きょり}を置き、自由で根本的なことを研究することは、人間の新しい方向性を切り開く活動として、とくに貴重なことになっていくでしょう。

（河野哲也『問う方法・考える方法「探究型の学習」のために』〈ちくまプリマー新書〉より）

注1・マイノリティ……少数派。

注2・喫緊^{きつきん}……差し迫^{せま}った重要なこと。

問一

1

4

に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、だから イ、そして ウ、しかし エ、また オ、もし

問二

【A】・【B】に入ることをそれぞれ漢字二字・漢字一字で答えなさい。

問三

《X》に入る二字のことを次の漢字を組み合わせ作りなさい。

少 加 工 減 量 増

問四

——線部Y・Zの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

Y「キャパシテイ」

ア、境界

イ、限界

ウ、力量

エ、容量

Z「コスト」

ア、税金

イ、失敗

ウ、労力

エ、技能

問五 本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直後にくる五字をぬき出しなさい。

しかし今では、個々人がどういう生き方をするかが問われるようになっていきます。

問六 — 線部①「反動」とあるが、どのようなことに対する「反動」か。「～こと」につながるように文中から十五字以内でぬき出しなさい。

問七 — 線部②「よい側面を推進し、悪い側面を正していかなくてはなりません」とあるが、「よい側面」と「悪い側面」の説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、よい側面とは情報や知識が世界で共有されるようになったことであり、悪い側面とはコロナウイルスが蔓延^{まんえん}してしまつたことである。

2、よい側面とはインターネットであらゆる国の人とつながることができることであり、悪い側面とは独裁的な政治家が増えたことである。

3、よい側面とはさまざまな他国の商品が手に入りやすくなることであり、悪い側面とは国内で失業者が生じ、経済格差が拡大することである。

4、よい側面とは小さな紛争もすぐに世界中で問題として取り上げられるようになったことであり、悪い側面とは国境の移動に制限が出たことである。

問八 — 線部③「環境問題」とあるが、どのような考えが環境問題を生じさせたか。文中のことばを用いて四十五字以内で説明しなさい。

問九

——線部④「情報テクノロジー」とあるが、本文の内容として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、インターネットの普及により誰^{だれ}もが大量の情報にアクセスできるようになったが、それらを使いこなせるかどうかは人によって差がある。

2、インターネットが広まることで便利になったが、個人情報流出してしまう危険性が増し、情報管理の重要性がますます高まっている。

3、インターネットを利用して生活することが当たり前になったが、なかにはアクセスすることの難しい人もいるため格差が広がっている。

4、インターネットをうまく使う学校や企業が増えたが、一方では自分のペースで仕事や勉強をしたい人が邪魔^{じゃま}されることも多くなっている。

問十

⑤ に入ることばとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、家庭を大切にする関係

2、生活を豊かにする財産

3、仕事を充実させる方法

4、人生を評価する基準

問十一 — 線部⑥「これまでとは別の意味での学歴が問われる」とあるが、それはどういうことか。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、多くの人に認められる大学を出たかどうかではなく、今後の日本がどうなるのかを予想して必要とされる技術身に付けることが、安定した収入を得るためには大事になる、ということ。

2、世間的に評価の高い大学を出たかどうかではなく、各自が自分の能力などに関わりなくやりたいことを大切にし、一生懸命に取り組んできたかどうかが大切になる、ということ。

3、偏差値の高い大学を出たかどうかではなく、その大学で何が学べるのかをよく調べた上で、地道な努力を惜しまずに専門的な勉強を深められたことが評価される、ということ。

4、有名な大学を出たかどうかではなく、個々人が自分の価値観に基づき、どのような知識や能力を身に付けたか、また、それをどのように社会に活かせるかが重要になる、ということ。

問十二 この文章は四つの節からできている。「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」のそれぞれに適切なタイトルを次の中から選び番号で答えなさい。

1、「何者か」ではなく「何を学んだか」が問われる

2、人工知能にはできないことが重視される社会

3、世界は一つにつながっている

4、現代社会最大の課題、環境保護

問十三 次の生徒と先生の会話を読んで、本文の内容と一致しない話題をあとの1～4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

先生「もう四年も前のことになるけれど、新型コロナウイルスは世界に大きな影響を与えたね。」

生徒A「海外への移動はもちろんのこと、日本国内でも『緊急事態宣言』が出たり、『在宅勤務』が推奨されたり、生

活が大きく変わったよ。そんな中で、テレビのニュースやインターネットで各国の状況が知れることは、確かに『情報や知識が国境を越えていること』を実感できたね。」

生徒B「そういう意味では、昔以上に世界の意識が統一されつつあって、繋がりを感じられる。だからこそ、一体となつて取り組まなければいけない問題も多くあるんだ。」

先生「例えば？」

生徒B「この本文中にも見られたけど、『環境問題』は早急に考えなければいけない問題だよ。」

生徒A「地球温暖化のことだね。私たちのおじいさんやおばさんの世代の夏と比べると、気温の上昇、暑さは異常といわれるほどになっているし。」

先生「時代の変化で言うと、AIと呼ばれる『人工知能』もめざましい進歩を見せているね。」

生徒B「そうそう、機械的な仕事だけでなく、今まで人間が行ってきた仕事にとって代わっていく可能性すらあるんだ。」

生徒A「複雑なコミュニケーションや創造的な仕事は、まだまだAIには難しいかもしれないけどね。」

先生「また私たちの人生の捉え方も昔と変わってきているみたいだね。」

生徒B「良い大学に入って、良い会社に入ることが良いとされていた時代ではなくなって、どちらかというと『心の充実』が求められるようになってきている。」

生徒A「どうせなら、ちゃんと具体的な目的をもって学校で勉強したほうがいいもんね。」

生徒B「こうした『変化』については、常にアンテナを張って、敏感に日々を過ごしていきたいね。」

1、情報の話題

2、環境の話題

3、AIの話題

4、将来の話題

解答用紙

氏 名

得 点

国語 2 月 2 日

画

から。

۱۲۷۰